

541 595

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2004 年 7 月 22 日 (22.07.2004)

PCT

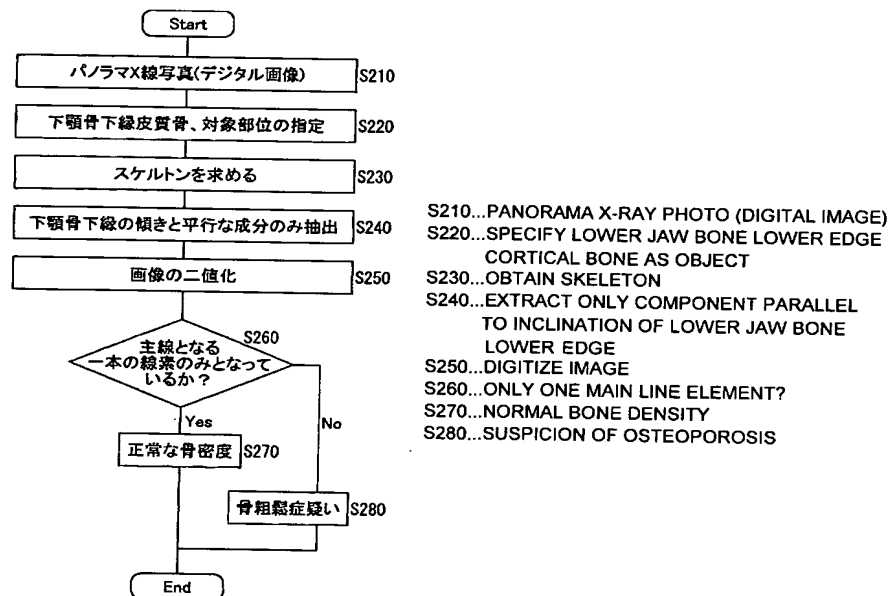
(10) 国際公開番号
WO 2004/060165 A1

- (51) 国際特許分類⁷: A61B 6/14 (72) 発明者; および
(21) 国際出願番号: PCT/JP2003/016591 (75) 発明者/出願人 (米国についてののみ): 田口 明
(22) 国際出願日: 2003 年 12 月 25 日 (25.12.2003) (TAGUCHI, Akira) [JP/JP]; 〒735-0013 広島県 安芸郡
(25) 国際出願の言語: 日本語 府中町浜田 3-9-9-4 0 6 Hiroshima (JP). 中元 崇
(26) 国際公開の言語: 日本語 (NAKAMOTO, Takashi) [JP/JP]; 〒731-0212 広島県 広島
(30) 優先権データ: 特願 2003-1395 2003 年 1 月 7 日 (07.01.2003) JP 市 安佐北区 三入東 2-6 4-2 Hiroshima (JP). 浅野
(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 独立 晃 (ASANO, Akira) [JP/JP]; 〒739-0021 広島県 東広島
行政法人科学技術振興機構 (JAPAN SCIENCE AND 市 西条町助実 2 4-4-4 0 6 Hiroshima (JP).
TECHNOLOGY AGENCY) [JP/JP]; 〒332-0012 埼玉 (81) 指定国 (国内): CA, CN, US.
県 川口市 本町四丁目 1 番 8 号 Saitama (JP). (84) 指定国 (広域): ヨーロッパ特許 (DE, FR, GB, IT).
添付公開書類:
— 国際調査報告書

[続葉有]

(54) Title: OSTEOPOROSIS DIAGNOSIS SUPPORT DEVICE USING PANORAMA X-RAY IMAGE

(54) 発明の名称: パノ ラマ X 線画像を用いた骨粗鬆症診断支援装置



(57) Abstract: There is provided an osteoporosis diagnosis support device using a panorama X-ray image. A digitized image of panorama X-ray photo is input to a personal computer (S210). On the panorama X-ray photo, a lower jaw bone molar portion lower edge cortical bone is specified by a mouse so as to be observed (S220). The extracted image is subjected to the image processing as follows. (1) A median filter is applied to the image and noise is reduced as much as possible. (2) A skeleton by the fine structure elements is obtained (S230). (3) Only a component parallel to the inclination of the lower jaw bone lower edge is extracted (S240). (4) The image is digitized by using, for example, a linear judgment method by Mr.Otsu (S250). After this, the digitized lines are classified into three groups according to the size and the group of the smallest lines is excluded. If there is more than one line of the largest group, it is judged that there is a suspicion of osteoporosis (S260).

[続葉有]

WO 2004/060165 A1



2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

(57) 要約: パノラマX線画像を用いた骨粗鬆症診断支援装置の提供。 デジタル化されたパノラマX線写真の画像をパーソナルコンピュータに入力する(S 210)。パノラマX線写真上の下顎骨臼歯部下縁皮質骨を観察の対象とするため、その部位をマウスで指定する(S 220)。この抽出画像に対して以下の画像処理を施す。(1) 画像にメディアンフィルターをかけ、可及的にノイズを少なくする。(2) 微小構造要素によるスケルトンを求める(S 230)。(3) 下顎骨下縁の傾きと平行な成分のみを抽出する(S 240)。(4) 例えば大津氏の線形判別法を用いて、画像を2値化する(S 250)。その後、2値化した線を大きさにより3群に分類し、一番小さい群の線を除き、一番大きい群と分類された線1本のみではない場合に、骨粗鬆症の疑いありと判定する(S 260)ことができる。

明細書

パノラマX線画像を用いた骨粗鬆症診断支援装置

5

技術分野

本発明は、歯科治療で撮影されているパノラマX線写真を用いて、骨粗鬆症の診断支援を行う装置に関する。

10

背景技術

現在日本には1000万人の患者がいると推定される骨粗鬆症患者、およびその予備群の早期発見・早期治療を行うことが重要である。

15

現在の我が国における主要な骨粗鬆症診断方法は、最も精密に骨量を測定することが可能である二重X線吸収測定装置（DXA）による腰椎、大腿骨の骨密度測定、および簡便な方法として、定量的超音波検査（QUS）による踵骨の骨密度測定がある。しかし、これらの装置は特定の施設にのみ配備されているのが現状であり、腰痛などの骨粗鬆症様の症状がある人、または骨粗鬆症に関する高い関心を持っている人にしか利用されておらず、骨粗鬆症が原因と考えられる骨折を未然に防ぐには至っていない。

20

骨密度の低下に伴い、全ての歯と周りの顎の骨等を写しているパノラマX線写真上の下顎骨下縁皮質骨（下顎骨の外側を覆っている厚い緻密骨）における形態の変化が起こるということが近年の研究で明らかになっている（非特許文献1参照）。図1に、歯のパノラマX線写真の例を示す。また、下顎骨下縁に形態変化を有する人では、そうでない人と比較して、微小な外力によって骨折を起こしてしまうリスクが有意に高くなることが分かっている（非特許文献2参照）。

25

さて、日常の歯科治療において、この下顎骨下縁部を観察することは頻度が少なく、また観察者の読影能力を問う点から、パノラマX線写真による骨粗鬆症の診断は実用化されていない。

これまでのパノラマX線写真を用いて骨粗鬆症を診断する研究は、上・下顎骨内部に存在する、スポンジ状の海綿骨と呼ばれる部の形態変化に着目するもの（非特許文献3，4，5，6参照）が中心であったが、パノラマX線写真上の海綿骨のみを自動的に抽出し診断することは困難であり、実用化されるには至っていない。また、下顎骨下縁皮質骨の厚さによって診断できる可能性があることも報告されている（非特許文献3，7参照）。

10 パノラマX線写真を用いて、骨粗鬆症の疑いのある人をスクリーニングすることができれば、診断の対象となりにくい自覚症状のない人や、骨粗鬆症に関する関心をもっていない人をスクリーニングし、骨粗鬆症の可能性のある人のみをDXAのようなより精密な検査を受けるよう指導、あるいは、その装置を有する施設に紹介することで、骨粗鬆症患者の早期発見、早期治療が実現でき、また検査に
15 かかるコストも削減できる。また、このスクリーニングに用いる手法は煩雑な操作を必要とせず、特別な能力を持たなくても利用できる簡単なものでなければならない。

しかしながら、例えば、パノラマX線写真における下顎骨下縁皮質骨の形態の変化に着目し、それをコンピュータソフトウェアによる数理形態学的画像処理に
20 よって、客観的に、自動的に評価することで、骨粗鬆症患者を診断する技術は存在していなかった。

（非特許文献1）

Klemetti E, et al :Pantomography in assessment of the osteoporosis risk group, Scandinavian Journal of Dental Research, 1994, 102, P68-72

25 （非特許文献2）

Bollen A-M, et al :Case-control study of self-reported osteoporotic fract

ures and mandibular cortical bone, Oral Surgery Oral Medicine Oral Pathology Oral Radiology and Endodontics, 2000, 90(4), P518-524

(非特許文献 3)

- 音琴淳一, 他: パノラマ X 線写真パラメータを用いた歯周病と骨粗鬆症の関係の
5 検討および骨粗鬆症診断の試み, 日本歯周病学会会誌, 2001, 43 (1), P13-24

(非特許文献 4)

Kumasaka S, Kashima I :Initial investigation of mathematical morphology for the digital extraction of the skeletal characteristics of trabecular bone, Dentomaxillofacial Radiology, 1997, 26, 161-168

- 10 (非特許文献 5)

Stuart C. White, et al :Alterations of trabecular pattern of the jaws in patients with osteoporosis, Oral Surgery Oral Medicine Oral Pathology Oral Radiology and Endodontics, 1999, 88(5), P628-635

(非特許文献 6)

- 15 Southard T. E. et al :IEE Trans Biomed Eng:43, 123-132(1996)

(非特許文献 7)

田口明, 和田卓郎: 骨粗鬆症一早期診断に果たす歯科の役割一, 広島大学歯学雑誌, 1993, 25, p 525-526

(非特許文献 8)

- 20 丹部貴大, 他: パノラマ X 線写真からの顎骨骨梁抽出, 電子情報通信学会, 2002, P 94

発明の開示

- 25 本発明の目的は、簡単な操作で骨粗鬆症の疑いのある人をスクリーニングすることができる、パノラマ X 線画像を用いた骨粗鬆症診断支援装置を提供しようとする

るものである。

上記目的を達成するために、本発明は、歯のパノラマX線画像を用いた骨粗鬆症診断支援装置であって、前記歯のパノラマX線画像における指定された部分を含む領域の画像を抽出する画像領域抽出手段と、抽出された画像のスケルトンを求めるスケルトン処理手段と、求めたスケルトンのうち、下顎骨の下縁の傾きと平行な部分のみを抽出する線抽出手段と、スケルトンを含む画像を、スケルトンの線を背景から分離するように2値化する2値化手段と、2値化した線を大きさにより分類して、骨粗鬆症の疑いを判定する判定手段とを備えることを特徴とする。

10 前記判定手段は、2値化した線を大きさにより3群に分類し、一番小さい群の線を除き、一番大きい群と分類された線1本のみではない場合に、骨粗鬆症の疑いありと判定することができる。

前記画像抽出手段は、下顎骨の下縁の傾きと平行な矩形領域の画像を抽出し、前記線抽出手段は、線の水平な部分を抽出してもよい。

15 上述の骨粗鬆症診断支援装置をコンピュータシステムに構築させるプログラムも本発明である。

図面の簡単な説明

20 図1は、歯のパノラマX線写真の例を示す図である。

図2は、パノラマX線写真上の下顎骨や正常な皮質骨・骨密度低下者の皮質骨を示す図である。

図3は、骨粗鬆症診断支援装置の画像処理を示すフローチャートである。

図4は、正常な人の画像に対する処理過程を示す図である。

25 図5は、骨粗鬆症の人の画像に対する処理過程を示す図である。

図6は、スケルトンの意味を説明するための図である。

図 7 は、スケルトンを得る処理を説明するための図である。

図 8 は、線素のヒストグラムを示すグラフである。

図 9 は、線素の部分拡大ヒストグラムを示すグラフである。

5

発明を実施するための最良の形態

以下、本発明の実施の形態を、添付図面を参照して説明する。

本発明は、Klemetti らの報告（非特許文献 1 参照）に基づく、パノラマ X 線写真上での下顎骨下縁皮質骨の形態変化を、数理形態学的画像処理手法の一つである、スケルトンを用いて識別し、骨粗鬆症患者のスクリーニングをするものである。

この発明での手法は、歯科治療目的で歯科医院に来院した患者のパノラマ X 線写真を用いるため、骨粗鬆症の自覚症状や関心を持っていない人をスクリーニングすることができ、またその診断を半自動的に行うため、特別な操作、能力を必要としない。なお、パノラマ X 線写真にスケルトンを用いることは、非特許文献 8 にも記載されている。

図 2（a）は、図 1 のパノラマ X 線写真の下顎部分の模式図である。図 2（a）の点線部分で示したパノラマ X 線写真上の下顎骨臼歯部下縁皮質骨の内面は、骨密度の低下が起こっていない人では、その形態がスムーズであり、一定の厚さを有している（図 2（b）参照）。しかし、骨密度が低下すると、その内面が線状に吸収を起こし、粗造な構造となることが明らかになっている（図 2（c）参照）。なお、図 2（c）に示すように、皮質骨の上部にある海綿骨も骨密度が低下すると同様に形態が変化している。

本発明はこの形態変化に着目し、下顎骨臼歯部下縁皮質骨の内面がスムーズなものであるか、粗造なものであるかを半自動的に判別することで、骨密度の低下した骨粗鬆症疑いの人を検出するものである。

この手法では、海綿骨を対象とするものや、下顎骨皮質骨の厚さを対象としたものに比べ、容易に骨粗鬆症の診断が可能である。

本発明は、パーソナルコンピュータ（P C）に実装されたプログラムで実現することができる。

- 5 図3に示した本発明の実施形態の処理に関するフローチャート、及び、図4、図5に示す抽出画像に基づき、本発明の手法を説明する。図4は正常な人の画像、図5は骨粗鬆症の人の画像である。

まず、用いるパノラマX線写真（図1参照）は、本装置のパーソナルコンピュータで読み取ることのできるデジタル画像に、スキャナー等を用いて変換する必要がある。このときの解像度は、300dpi以上を推奨する。近年、普及しつつあるデジタル画像出力方式の撮影装置であれば、スキャナー等を用いた変換の操作は必要としない。このようにして、デジタル化されたパノラマX線写真の画像をパーソナルコンピュータに入力する（S210）。

- 15 パノラマX線写真上の下顎骨臼歯部下縁皮質骨を観察の対象とするため、その部位をマウスで指定する（S220）。指定する部位は、第1大臼歯の下側の部分が望ましい。指定した結果、例えば、指定された部位を中心として周囲100×100ピクセルの領域を抽出する（図4（a）、図5（a）参照）。なお、図4（a）、図5（a）に示した抽出画像は、領域を抽出するときに、指定した箇所付近の下顎骨下縁の接線をもとめ、その接線の傾きと平行する矩形で抽出した画像である。これは、後の処理で、下顎骨下縁の傾きと平行な成分のみ抽出するが、その処理を容易に行うためである。

この抽出画像に対して以下の画像処理を施す。

- （1）画像にメディアンフィルターをかけ、可及的にノイズを少なくする。
- （2）微小構造要素によるスケルトンを求める（S230）。
- 25 （3）下顎骨下縁の傾きと平行な成分のみを抽出する（S240）。
- （4）例えば大津氏の線形判別法を用いて、画像を2値化する（S250）。

以下に、それぞれの処理について詳しく説明する。

<メディアンフィルター処理>

画像にメディアンフィルターをかけるのは、ノイズを少なくするためである。

- 5 メディアンフィルターは、周囲の領域とかなり異なる、小さくてランダムに散在するノイズを取り除くことができる。このフィルターは、通常の画像処理プログラムの機能として知られており、必要に応じて使用する。

<スケルトン処理 (S 2 3 0) >

スケルトン (skeleton) とは「骨格」の意味で、画像中の物体を削り取って骨組みにすることである。物体をXとすると、構造要素BによるスケルトンSK

- 10 (X, B) は次のように定義される。

(数1)

$$S_n(X, B) = (X \ominus n\overset{v}{B}) - (X \ominus n\overset{v}{B})_B$$

$$SK(X, B) = \bigcup_n S_n(X, B)$$

上式は、次のような意味を表している。まず、

(数2)

$$X \ominus n\overset{v}{B}$$

- 15 は「構造要素の相似形 $n\overset{v}{B}$ を図形Xの内部に敷き詰めたときの、 $n\overset{v}{B}$ の中心の集合」である。

図6 (図形X : 長方形, B : 円) を用いて、スケルトンの意味を説明する。
さて、 $n' < n$ とすると、

(数3)

$$(X \ominus n\overset{v}{B}) - (X \ominus n'\overset{v}{B})_B$$

中心に配置された構造要素 $n\overset{v}{B}$ (左側) は、それより大きい $n'\overset{v}{B}$ をXの内部に

配置しても覆えない部分がある。それ以外の場所に配置され nB （右側）は、 X の内部にある $n'B$ で完全に覆うことができる。

このように、

(数4)

$$(X \ominus n\overset{V}{B}) - (X \ominus n\overset{V}{B})_B$$

- 5 には「 nB をこの位置に配置したとき、 n より大きなサイズの相似形を X の内部に配置しても完全には覆うことができない」という性質がある。そこで、「 B （例えば、円）のなるべく大きな相似形を使って X （例えば、長方形）をきっちり覆う」ことを考えると、

(数5)

$$(X \ominus n\overset{V}{B}) - (X \ominus n\overset{V}{B})_B$$

- 10 に配置した nB は、それより大きな相似形で置き換えることはできない必要不可欠なものということになる。これを集めたものがスケルトンとなる。

したがって、図7（a）の図形 X （長方形）のスケルトンは、「 B （円）のなるべく大きな相似形を使って X （長方形）をきっちり覆ったとき（図7（b）参照）の、相似形の中心の軌跡」（図7（c）参照）ということになる。この画像

- 15 処理により、抽出画像は1つあるいは複数の線素によって構成されたものとなる。

図4（b）、図5（b）は、図4（a）、図5（a）の抽出画像をスケルトン処理した結果である。

- 20 <下顎骨下縁と平行な線の抽出（S240）>

スケルトン処理を行った結果、図4（b）、図5（b）に示すように、細かい線が色々な方向に走っている画像が得られる。

さて、下顎骨下縁皮質骨の中には、血管の束があり、骨密度が低下した人では、その管腔組織に沿って線状に吸収を起こしている（図2（c）参照）。この吸収は、下顎骨下縁と平行な線として現れるので、その線を検出するために、下顎骨下縁とほぼ平行な線の抽出を行っている。

- 5 具体的には、下顎骨下縁と平行する長方形（線）のパターンを用意し、そのパターンと一致する線を抽出している。

図4（b）、図5（b）のスケルトン画像は、抽出したときに、下顎骨下縁と平行する矩形となるように行っているので、水平なパターンを用意し、そのパターンと一致する線を抽出している。これは、スケルトンの場合、抽出するための

10 パターンが細く小さいために、下顎骨下縁と平行する斜めのパターンを用意することが難しい。このために、水平なパターンを用意すればよいように、あらかじめ画像抽出時に、下顎骨下縁と平行する矩形となるように抽出処理を行っているのである。

<画像の2値化処理（S 2 5 0）>

- 15 ここまでは、濃淡のある画像を用いて画像処理を行ってきたが、ここで、スケルトン処理により作成された線を、背景から分離するように2値化を行う。このため、例えば、大津氏の2値化手法（大津展之「判別および最小2乗規準に基づく自動しきい値選定法」電子通信学会論文誌 Vol. J63-D No. 4 1980年4月参照）により、2値化のしきい値を定めて、2値化処理を行うとよい。

- 20 図4（b）、図5（b）のスケルトン画像から、下顎骨下縁と平行な部分のみ取り出して、2値化処理した後の画像を、図4（c）、図5（c）に示す。

<骨粗鬆症の判別（S 2 6 0）>

2値化処理後に現れた線素は、その画素数（大きさ）から、3つのカテゴリーに分類することができる。

- 25 小さなものから順に、

1. 雑音 → 第1群

2. 線状の骨吸収によって現れたやや小さめの線素 → 第2群

3. 下顎骨下縁皮質骨による主線 → 第3群

となる。

これらの分類には各カテゴリー間に画素数による閾値が必要となる。

- 5 広島大学歯学部附属病院歯科放射線科に、DXAによる骨密度測定のため来科した患者にパノラマX線撮影を施行し、その画像100枚を用いて、画像処理後の線素の大きさを計測し、図8に示すようなヒストグラムを作成した。図8から分かるように、雑音と考えられる小さなピクセル数の線素（0～100ピクセル程度）が非常におおくなっている。そこで、ヒストグラムの山の麓の値であるピクセル数117以下の大きさのものを雑音（第1群）とした。

- 次に、117ピクセル以下の部分を削除して、より大きな成分のみヒストグラムを作成した。作成したヒストグラムを図9に示す。図9から分かるように、二峰性の分布をしており、2つの山の谷間の値、231ピクセル以上を下顎骨下縁皮質骨による一番大きな線素（第3群）であるとした。118～230ピクセルの大きさのものは線状の骨吸収によって現れた線素（第2群）であるとした。

この分類後の結果から、以下のように判定する（S260）。

- ・第1群の雑音は、対象としないので無視する。
- ・第2群の線素が存在する場合は、骨粗鬆症疑いとする。
- ・第2群の線素が存在せず、第3群の線素1本のみ存在する場合は正常とする。
- 20 ・第3群の線素が2本以上存在する場合は、骨吸収による線（第2群の線）が連続して第3群の線素となったと考えられるので、骨粗鬆症疑いとする。

以上の判定の結果、第3群の線素（主線）である一本の線素のみであり、正常と診断されたものでは、「正常」と出力し（S270）、その他の骨粗鬆症疑いと診断されたものでは「疑い」と出力し（S280）、表示装置等に表示する。

- 25 図4（c）、図5（c）の例では、図4（c）は、雑音を除くと明らかに主線1本のみの画像であるので正常と判定され、図5（c）は、長い線がたくさんあ

るので、骨粗鬆症の疑いがあると判定される。

<具体例>

5 広島大学歯学部附属病院歯科放射線科に、D X A法による腰椎および大腿骨の骨密度測定のために来科した50歳以上の女性患者100人のパノラマX線写真を、本装置を用いて診断した。この診断結果と、D X A法により、日本骨代謝学会の診断基準に従った診断結果（若年者平均骨密度の80%以下のものを骨密度低下者とする）をゴールドスタンダードとして本装置による診断の精度を測定した。

10 その結果、感度（D X A法の診断結果の骨密度低下者のうち、本装置が骨粗鬆症疑いとして検出したものの割合）：82.2%、特異度（D X A法の診断結果の骨密度正常者のうち、本装置が骨密度正常として検出したものの割合）：60.0%、正診率（D X A法による全ての診断結果と、本装置による全ての診断結果の一致率）：70.0%となっていた。

15 同じパノラマX線写真100枚を用いて、広島県呉市歯科医師会所属の27名の開業歯科医師により、診断を行わせ、同様に診断精度を測定した。

その結果、感度：約77%、特異度：約40%、正診率：約58%であった。このことから、開業歯科医師よりも高い精度で骨粗鬆症疑いの人をスクリーニングすることが可能である。

20 なお、本発明は、上記した実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内において種々変更を加え得ることは勿論である。

産業上の利用の可能性

25 本発明のパノラマX線画像を用いた骨粗鬆症診断支援装置では、診断に必要な操作は部位を指定するのみとすることが可能であるので、特に観察を行う者の診断能力を問うことはない。

また、この装置を現在普及しつつあるデジタル画像出力方式のパノラマX線写真撮影装置に搭載することで、開業歯科医院における普及が見込まれる。

パノラマX線撮影法は、歯科医院にて歯科疾患の診断のため、しばしば用いられているものであり、医科で用いられている他のX線撮影法と比較しても高い頻度で施行されているので、従来の方法より多くの人で、骨粗鬆症にそれまで関心のなかった人をスクリーニングすることが可能となる。

本装置にてスクリーニングをしたのち、骨粗鬆症と疑われた患者は、他の施設でのDXA法による検査を受けるよう指導することで、早期発見・早期治療に貢献できるものである。

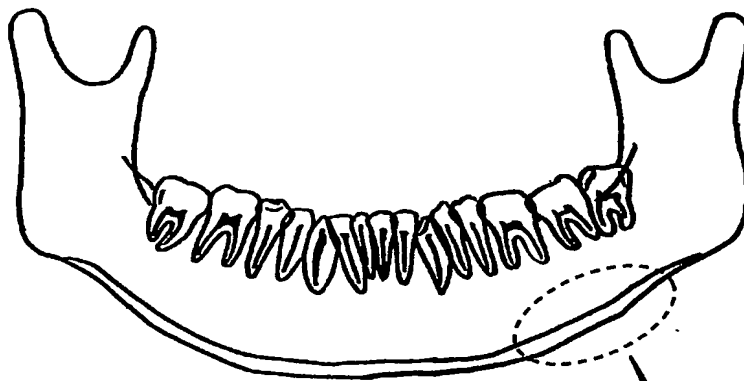
請求の範囲

1. 歯のパノラマX線画像を用いた骨粗鬆症診断支援装置であって、
前記歯のパノラマX線画像における指定された部分を含む領域の画像を抽出する
5 画像領域抽出手段と、
抽出された画像のスケルトンを求めるスケルトン処理手段と、
求めたスケルトンのうち、下顎骨の下縁の傾きと平行な部分のみを抽出する線
抽出手段と、
スケルトンを含む画像を、スケルトンの線を背景から分離するように2値化する
10 る2値化手段と、
2値化した線を大きさにより分類して、骨粗鬆症の疑いを判定する判定手段と
を備えることを特徴とする骨粗鬆症診断支援装置。
2. 請求項1に記載の骨粗鬆症診断支援装置において、
15 前記判定手段は、2値化した線を大きさにより3群に分類し、一番小さい群の
線を除き、一番大きい群と分類された線1本のみではない場合に、骨粗鬆症の疑
いありと判定することを特徴とする骨粗鬆症診断支援装置。
3. 請求項1又は2に記載の骨粗鬆症診断支援装置において、
20 前記画像抽出手段は、下顎骨の下縁の傾きと平行な矩形領域の画像を抽出し、
前記線抽出手段は、線の水平な部分を抽出する
ことを特徴とする骨粗鬆症診断支援装置。
4. 請求項1～3のいずれかに記載の骨粗鬆症診断支援装置をコンピュータ
25 システムに構築させるプログラム。



1
[X]

(a)パノラマX線写真上の下顎骨



(b)正常な皮質骨



(c)骨密度低下者の皮質骨

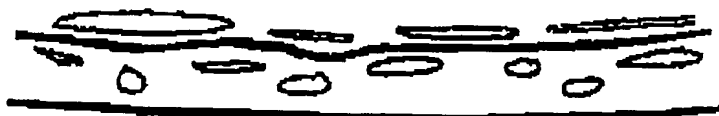


図 2

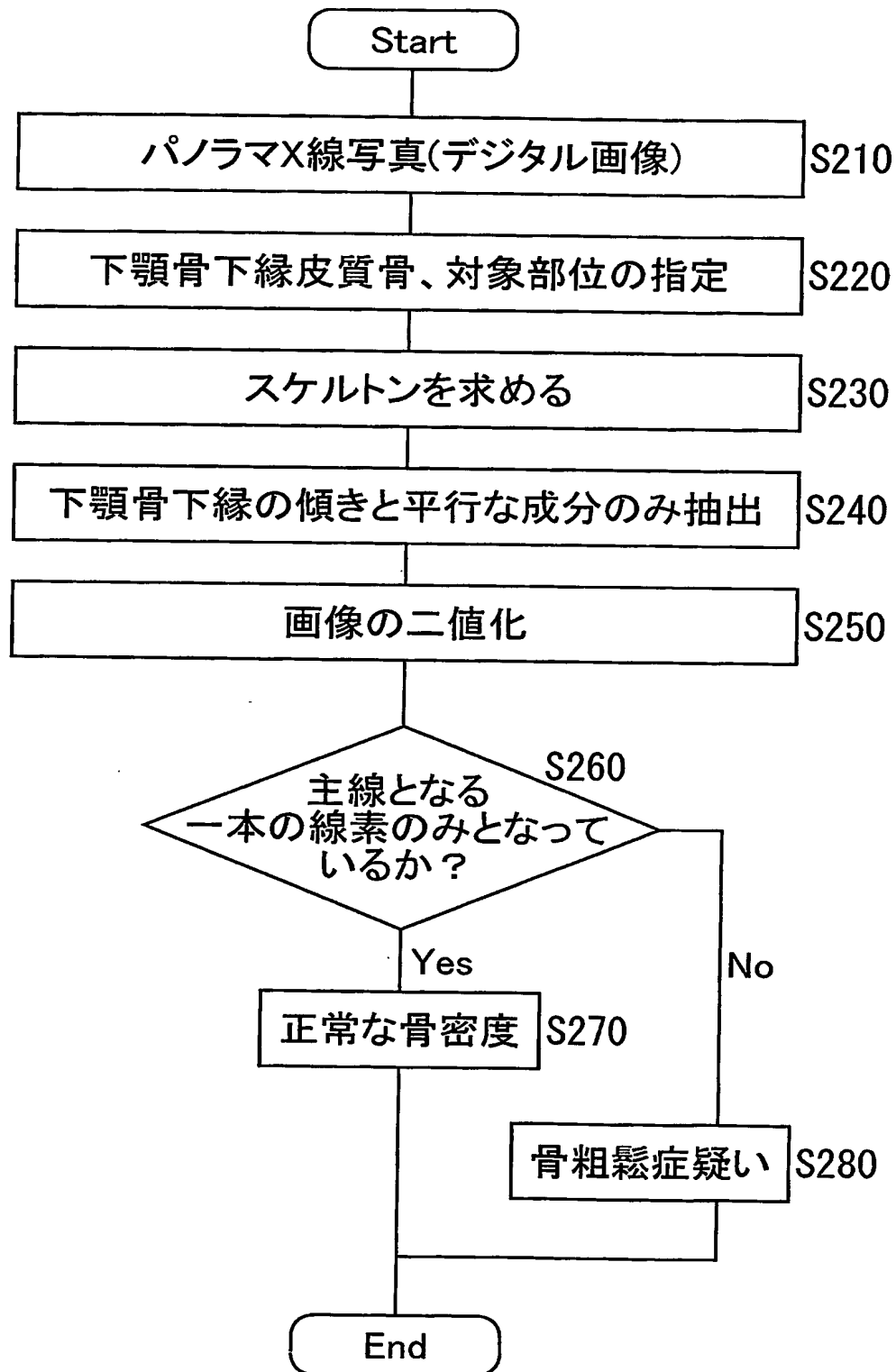
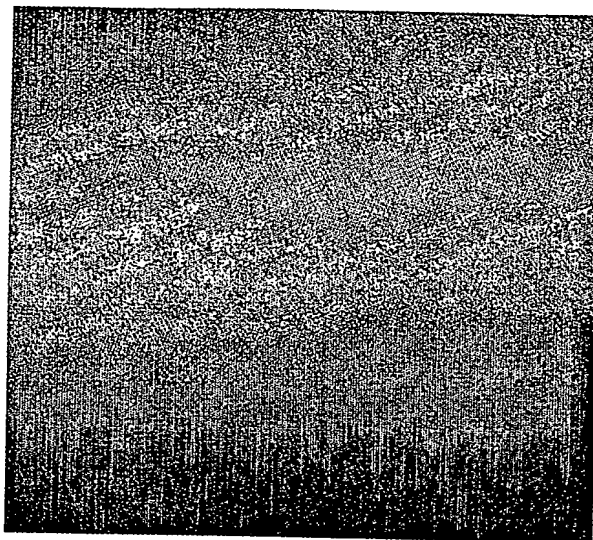
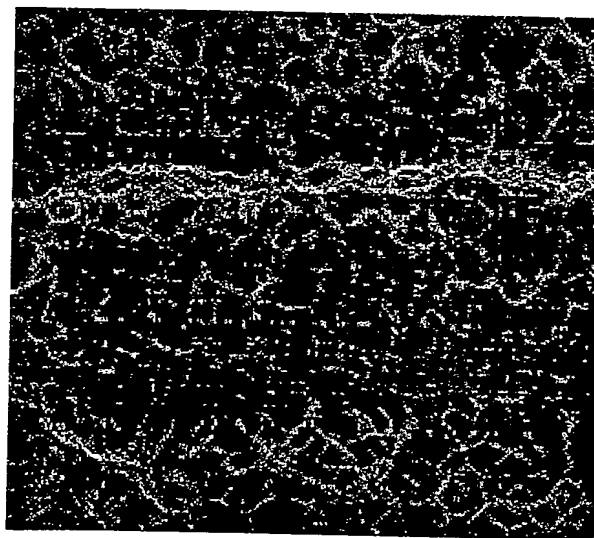


図 3

(a)



(b)

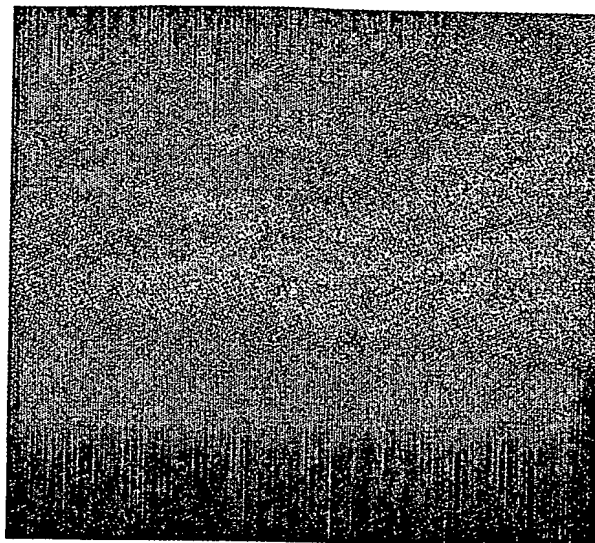


(c)

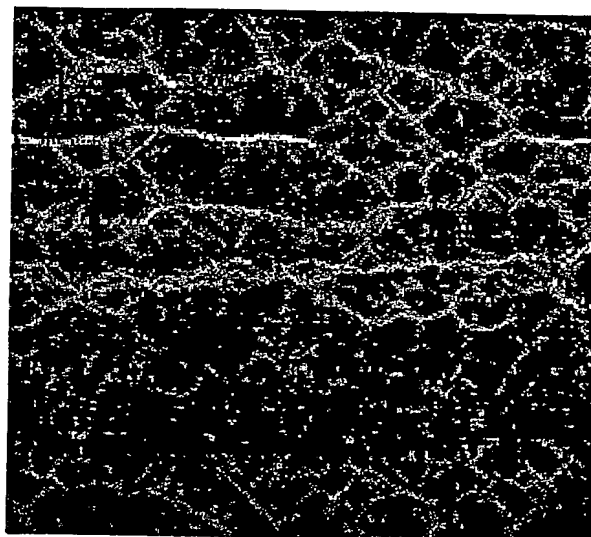


図 4

(a)



(b)



(c)



図 5

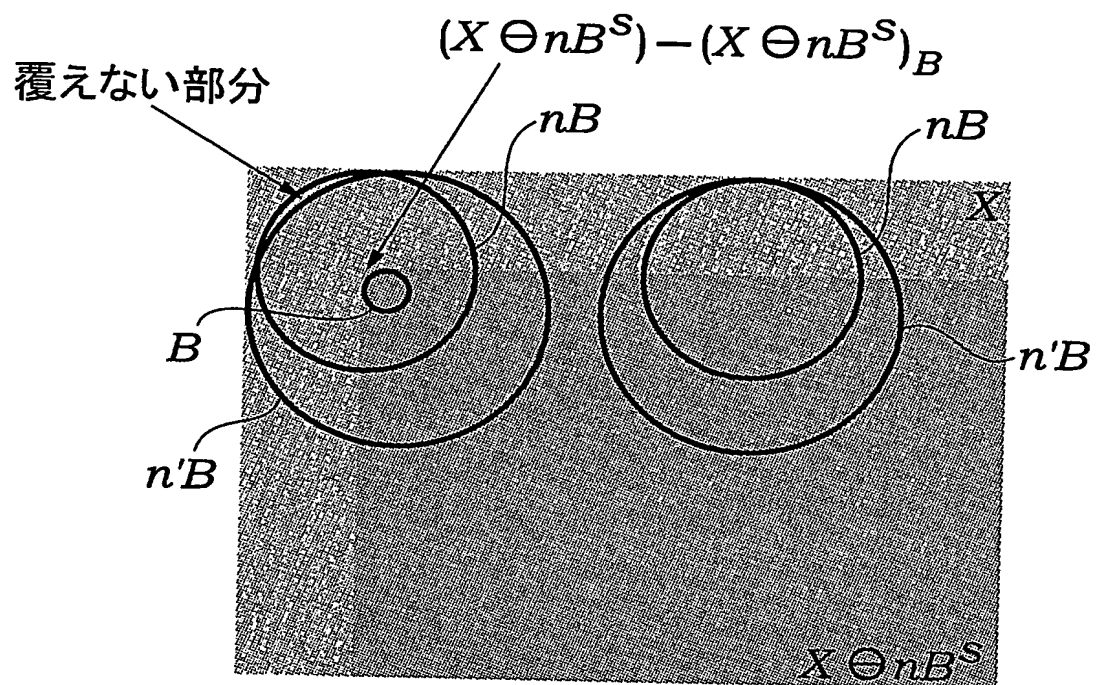
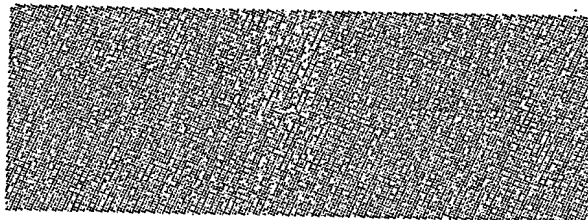
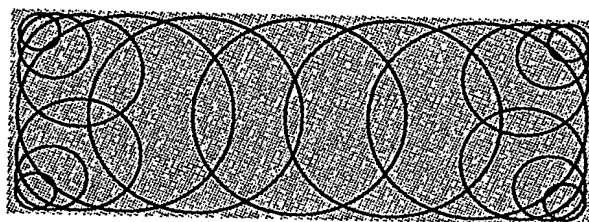


図 6

(a)図形 X



(b)構造要素の相似形 nB を敷き詰める



(c) nB の中心の軌跡＝スケルトン

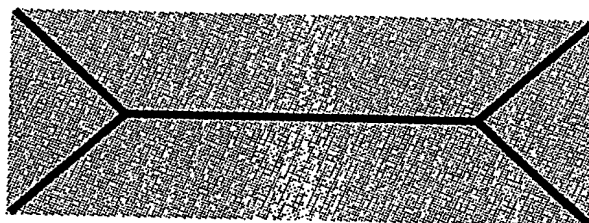


図 7

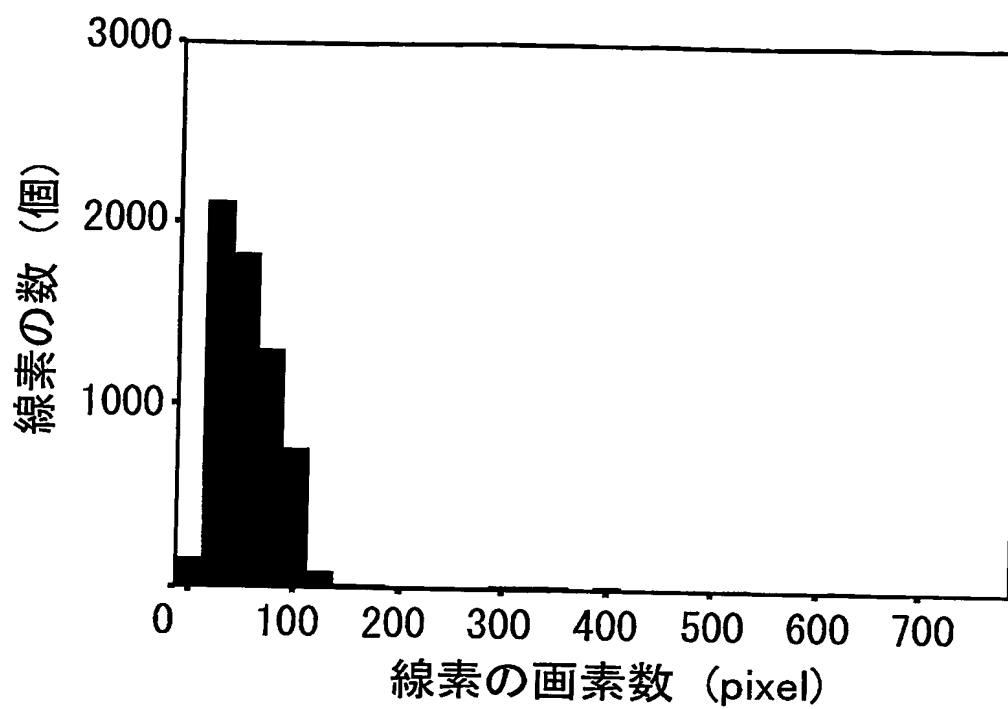


図 8

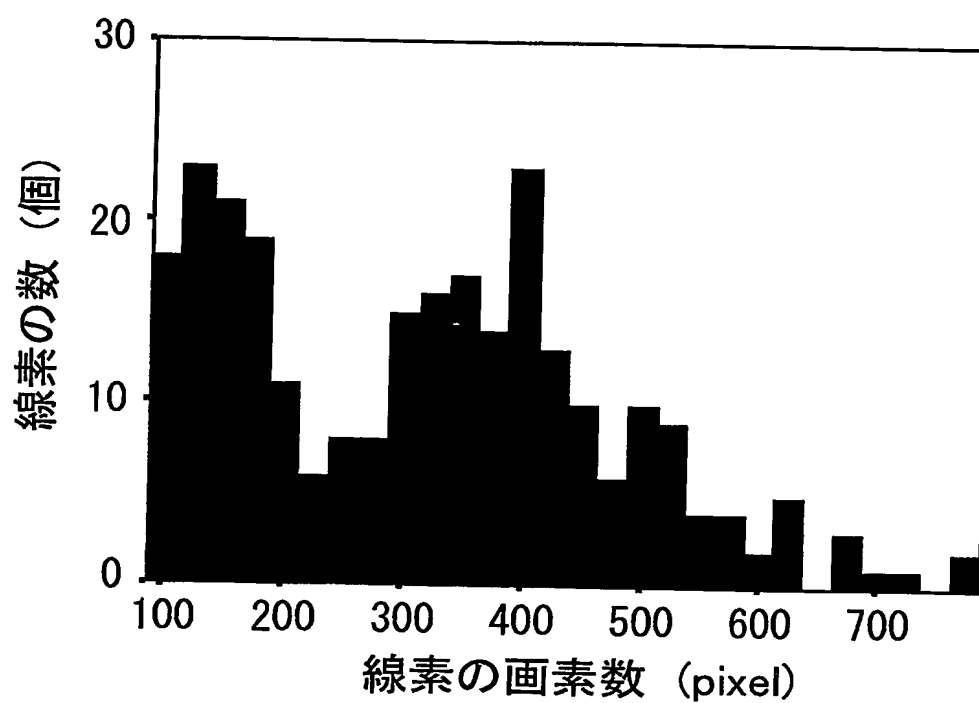


図 9

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/16591

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl⁷ A61B6/14

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ A61B6/00-6/14

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2004
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2004	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)
JICST FILE [KOTSUMITSUDO AND GAZO AND PATAN] (in Japanese)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2000-245722 A (ETRI: Electronics and Telecommunications Research Institute), 12 September, 2000 (12.09.00), Full text; Figs. 1 to 4 & US 6430427 B1	1-4
A	JP 11-155849 A (Fuji Photo Film Co., Ltd.), 15 June, 1999 (15.06.99), Full text; Figs. 1 to 11 (Family: none)	1-4
A	Yu KASHIMA et al., "Kosshitsu no Hyokaho Suri Keitaigaku ni yoru Honekozo no Kokkaku Tokucho Chushutsu Computed Radiography eno Oyo", Bone, 1996, Vol.10, No.4, pages 67 to 75	1-4

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier document but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search
22 January, 2004 (22.01.04)

Date of mailing of the international search report
03 February, 2004 (03.02.04)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/16591

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	Shoko ITO, "Kotsuryo Sokutei 13 Texture Bunseki (1) Genri-Hoho", Bone, 1996, Vol.10, No.1, pages 135 to 141	1-4
A	Matsubara M. et al., Non-invasive assessment of bone quality, J.Med.Dent.Sci., 1999, Vol.46, No.4, pages 165 to 176	1-4
A	Ryota KAWAMATA et al., "Daisan Yosui no Kozo Henka Kenshutsuno ni Kansuru Kenkyu Kotsumitsudo to Kozo Shihyo tono Hikaku", Journal of Japanese Society of Bone Morphometry, 2002, Vol.12, No.1, pages 57 to 63	1-4

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷. A61B6/14

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ A61B6/00-6/14

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年
 日本国公開実用新案公報 1971-2004年
 日本国登録実用新案公報 1994-2004年
 日本国実用新案登録公報 1996-2004年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

JICST科学技術文献ファイル, [骨密度 AND 画像 AND パターン]

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	JP 2000-245722 A (韓国電子通信研究所) 2000. 09. 12 全文、第1-4図 & US 6430427 B1	1-4
A	JP 11-155849 A (富士写真フイルム株式会社) 1999. 06. 15 全文、第1-11図 (ファミリーなし)	1-4

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
 「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
 「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
 「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献
 「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
 「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
 「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
 「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

22. 01. 2004

国際調査報告の発送日

03. 2. 2004

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)
 郵便番号100-8915
 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)
 安田 明央

2W 9309

電話番号 03-3581-1101 内線 3290

C (続き) . 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	鹿島勇 他, 骨質の評価法 数理形態学による骨構造の骨格特徴抽出 コンピューテッドラジオグラフィーへの応用, Bone, 1996, 第10巻, 第4号, p. 67-75	1-4
A	伊東昌子, 骨量測定13 テキスチャー分析 ①原理・方法, Bone, 1996, 第10巻, 第1号, p. 135-141	1-4
A	Matsubara M. et.al., Non-invasive assessment of bone quality, J. Med. Dent. Sci., 1999, vol.46, No.4, p.165-176	1-4
A	川股亮太 他, 第三腰椎の構造変化検出能に関する研究 骨密度と構造指標との比較, 日本骨形態計測学会雑誌, 2002, 第12巻, 第1号, p. 57-63	1-4